

高志の国
文学館

KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

令和5年度

高志の国文学館 年報

令和5年度

目 次

I 令和5年度のあゆみ

令和5年度のあゆみ	4
-----------	---

II 事業内容

1 展示活動	6
2 資料概況	18
3 教育・普及事業	19
4 高志の国文学館友の会	30

III 管理・運営

1 利用状況	32
2 施設の概要	34
3 機構	35
4 組織	36

IV 資料

沿革	38
----	----

V 関係法令

関係法令	42
------	----

I 令和5年度のあゆみ

令和5年度 高志の国文学館のあゆみ

年 月 日	事 項
令和5年4月16日	春花の集い2023
5月12日	G7富山・金沢教育大臣会合（～15日）における高志の国文学館視察
5月20日	文学講座（大学連携シリーズ）（7月1日まで 全4回）
5月27日	高志プロジェクト令和4年度認定者による研究発表
6月25日	企画展「絵本作家 降矢なな原画展」（9月4日まで）
6月30日	クローズアップコーナー 「新資料紹介 生誕90年 柏原兵三―恩師との書簡と同人雑誌「運河」」 （令和6年6月24日まで）
同日	特別コレクション室 「富山と映画 映画監督・本木克英特集」 （令和6年6月24日まで）
7月15日	室井滋の文学サロンきとぎとの仲間たち（12月3日まで 計3回）
7月16日	第3回大伴家持文学賞及び第3回高志の国詩歌賞贈呈式
7月26日	夏のこどもフェスティバル―文学館でいっしょに遊ぼう＆学ぼう（8月26日まで）
8月5日	室井滋の夜嘶（3月24日まで 計2回）
9月16日	文学講座（富山を知る・学ぶ）（11月18日まで 全4回）
9月24日	企画展「富山新聞創刊100年記念 ドナルド・キーン 世界から見た日本文学展」 （11月27日まで）
9月30日	観月の集い2023
10月21日	朗読と音楽の集い（12月23日まで 全3回）
10月27日	全国文学館協議会第9回資料情報部会（～28日）
11月25日	絵てがみ教室（11月26日まで）
12月24日	企画展「没後50年 コスモポリタン 翁久允 OKINA Kyuin 脱日本人！展」 （令和6年3月4日まで）
令和6年2月9日	ミュージアムコンサート
3月19日	企画展「堀辰雄生誕120年展 “風立ちぬ” 堀辰雄と軽井沢の文学者たち」 （令和6年6月3日まで）

II 事業内容

1. 展示活動

□常設展示

概要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介しています。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介しています。平成29年4月には常設展示室のリニューアルを行い、作家の略歴等を紹介する大型タッチパネル、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当てて紹介する「クローズアップコーナー」、越中万葉を映像と音声で鑑賞できる映像ブース、寄贈・寄託を受けた作品や資料を中心に紹介する「特別コレクション室」が新設されました。

<ふるさと文学の回廊>

富山県ゆかりの代表的な文学者25人を、パネルや直筆原稿、デジタルサイネージなどで紹介。また、回廊内に設置した4つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介しました。



「ゆかりの文学者たち」コーナー

<ふるさと文学の蔵①>

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介すると



クローズアップコーナー

ともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示しました。

体験型装置「万葉とばし」及び映像ブースでは、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。「クローズアップコーナー」では、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当て、半年ごとに展示替えを行い紹介しました。

<ふるさと文学の蔵②>

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介しました。

<ふるさと文学の蔵③>

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。「特別コレクション室」では寄贈・寄託を受けた作品や資料をはじめとして、年に二度、春と秋にテーマを設定して紹介。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫（小泉八雲の旧蔵書）資料や、富山が輩出した先人について紹介しています。



「ゆかりの漫画家」コーナー



特別コレクション室

□ 展示構成

令和5年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要		
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索		
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介		
ふるさと文学の回廊	「ゆかりの文学者たち」コーナー	パネル	デジタルサイネージ	
		源氏鶏太 堀田善衛 柏原兵三 木崎さと子 宮本 輝 辺見じゅん 久世光彦	筏井竹の門 岩倉政治 遠藤和子 大井冷光 翁 久充 角川源義 小寺菊子 佐伯彰一 高島 高	瀧口修造 田中冬二 田部重治 暁 文兵 新田次郎 前田普羅 三島霜川 横山源之助 渡辺順三
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡		
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示		
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置		
	映像ブース	大伴家持の歌を現代語訳、解説と映像で紹介		
	「令和」記念コーナー	新元号「令和」を記念して設置		
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介		
	クローズアップコーナー	「新資料紹介 生誕90年 柏原兵三―恩師との書簡と同人雑誌「運河」」		
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から現代に至るまでの富山県ゆかりの文学を紹介		
ふるさと文学の蔵③	「ゆかりの漫画家」コーナー	藤子不二雄 ^㉔ 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原 秀則 花咲アキラ		
		特別コレクション室	「富山と映画 映画監督・本木克英特集」	
	ヘルン文庫コーナー	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎		
	「越中の先人」コーナー	安田善次郎 浅野総一郎 高峰譲吉 佐伯宗義 松村謙三 馬場はる		

(注1) ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。

(注2) ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。令和5年度は4回の展示替えを行った。

□クローズアップコーナー

「新資料紹介 生誕 90 年 柏原兵三—恩師との書簡と同人雑誌「運河」

会 期／令和 5 年 6 月 30 日 ㊦～

令和 6 年 6 月 24 日 ㊦

担 当／小林加代子

出品点数／40 点

趣旨・総括

柏原兵三(かしわばら・ひょうぞう 1933～1972)は、「徳山道助の帰郷」で第58回芥川賞を受賞した富山県ゆかりの作家です。少年期に父の故郷である富山県下新川郡入善町に疎開した体験をもとに描いた小説「長い道」では、したたかな子どもたちの社会を生き生きと描いています。「長い道」は、のちに藤子不二雄㊦の漫画「少年時代」の原作となり、篠田正浩監督「少年時代」として映画化もされ、入善町、朝日町をはじめ、富山県各地で撮影が行なわれました。

高志の国文学館では、没後50年となる令和4年(2022)に、開館10周年記念企画展「没後50年 芥川賞作家 柏原兵三展」を開催しました。企画展をきっかけに、柏原兵三の東京大学時代の恩師で、同人雑誌「運河」の顧問ともいべき立場にあったドイツ文学者・斎藤栄治教授に宛てて柏原兵三が送った書簡13通を、斎藤栄治教授の次女、松崎美沙氏より新たに寄贈いただくこととなりました。

令和5年(2023)は、柏原兵三の生誕90年に当たります。この機会に、常設展示室クローズアップコーナーでは、新収蔵資料として、新たに受贈した書簡を公開しました。あわせて、当館所蔵の柏原兵三旧蔵資料より、斎藤栄治教授から受け取った書簡や、柏原兵三が大学の友人たちとともに創刊した同人雑誌「運河」などを展示しました。

柏原兵三は、「運河」において、小説「夏休みの繪」と「長い道」を連載しました。斎藤教授との手紙を通じて、恩師、仲間たちと議論を交わしつつ、長編小説執筆に挑んだ柏原兵三の学生時代、そして、「運河」での連載開始から10年をかけた「長い道」完成までの長い道のりをクローズアップして紹介しました。

また、今回の展示では、令和5年度富山大学人文学部開講「博物館実習」履修学生の皆さんの協力を得て、「夏休みの繪」と「長い道」の「イチオシPOP」を制作し、学生の皆さんが注目した小説の見どころを、絵と文で表現した展示パネルとして紹介しました。あわせて、パネルやキャプションの作成や展示作業を行

いました。

主な展示資料

柏原兵三 斎藤栄治宛書簡 8通

斎藤栄治 柏原兵三宛書簡 3通

「運河」創刊号～第12号

柏原兵三 草稿「夏休みの繪」

柏原兵三 草稿「人間の歩く道」

柏原兵三 校正紙「バラトン湖」



クローズアップコーナー全景



富山大学の学生の皆さんが制作した「イチオシPOP」



展示コーナーの一部

□特別コレクション室

「富山と映画 映画監督・本木克英特集」

会 期／令和5年6月30日迄～

令和6年6月24日迄

担 当／大川原竜一

出品点数／30点

趣旨・総括

映画の4作目ではじめて故郷を意識せざるを得なくなりました。自分の作品や演出スタイルに故郷が影響しているかなと、思いはじめたのも、そのころから。故郷のことを「釣りバカ日誌13」を撮って以来は、よく思うようにはなりました。

—本木克英監督インタビュー
「わたしの映画づくり」より

富山県出身の映画監督・本木克英（昭和38年 [1963]～）。松竹に助監督として入社、平成10年（1998）に「てなもんや商社」で監督デビューを果たします。「釣りバカ日誌」シリーズ、「鴨川ホルモー」、「超高速！参勤交代」、「空飛ぶタイヤ」など話題の作品をつぎつぎに撮り、エンタテインメント映画の可能性を追求しつづけている、いま最も期待を集める映画監督の一人です。

監督が手がけた「釣りバカ日誌13」は、映画を通じて富山県の魅力を全国にひろく情報発信するとともに、地元の住民がロケの支援活動に主体的にかかわり地域の魅力や価値を再発見するきっかけになりました。

本展では、富山を舞台とした「釣りバカ日誌13」、当館の室井滋 館長も出演した「大コメ騒動」にくわえ、話題の新作「シャイロックの子供たち」をとりあげ、映画の制作にかかわる貴重な資料を展示。人情喜劇を数多く手がけている本木監督の映画づくりの舞台裏を紹介しました。

主な展示資料

- ・「てなもんや商社」撮影台本（決定稿）
- ・第42回日本アカデミー賞優秀監督賞トロフィー（「空飛ぶタイヤ」）
- ・「釣りバカ日誌13」絵コンテ《S # 1》多摩川の河原
- ・「釣りバカ日誌13」図面「天狗堂会長室」
- ・第39回日本映画復興賞盾（「大コメ騒動」）
- ・「大コメ騒動」図面「東岩瀬海岸」

- ・「大コメ騒動」デザイン画「薬問屋」
- ・「シャイロックの子供たち」『ヴェニスの人』舞台演出プラン
- ・「シャイロックの子供たち」デザイン画「東京第一銀行 長原支店」
- ・「シャイロックの子供たち」図面「プラン1階」



展示風景



展示風景



展示ケース「大コメ騒動」

(1)企画展「絵本作家 降矢なな原画展」

会 期／令和5年6月24日(土)～9月4日(日)

主 催／高志の国文学館

共 催／北日本新聞社、富山テレビ放送

特別協力／降矢なな

後 援／駐日スロヴァキア共和国大使館

協 力／射水市大島絵本館、絵本学会、福音館書店、
偕成社、童心社、グランまま社、のら書店、
BL 出版

企画制作／MIMOseele

担 当／生田美秋（総括） 亀島麻衣子（主務）

観覧者数／5,519人

出品点数／約230点

印刷物／チラシA 4判 ポスターA 1判



チラシ 表



チラシ 裏

趣旨・総括

降矢ななは、巧みな絵本の表現で最も注目を集める絵本作家のひとりです。子どもの目線にこだわった絵本づくり、物語にふさわしい多彩な表現、登場人物の魅力的な造形、生き生きとした線とダイナミックな構図、明るく、明快な色彩、ユーモアのセンス、子どもたちが発見して喜ぶ絵のなかの遊び。そして、文・ことばを十分に咀嚼した上で、テーマに沿ったあらゆる表現方法を駆使して、子どもたちが絵本の世界で遊び、夢中になる工夫を凝らしています。

本展では降矢の代表作を中心に、物語に新しい息吹を吹き込む絵本表現の魅力にあふれた多彩な作品を4章に分けて紹介しました。

第1章「はじまりの絵本 絵本作家 降矢なな誕生」では、不思議なおばけの世界を描いた『めっきらもっきら どおん どん』やコラージュ技法で描かれた『きよだいな きよだいな』など、デビュー間もない頃の創意工夫にあふれた作品を紹介しました。第2章「旅だ

ち ドウシャン・カーライとの出会い」では、ドウシャン・カーライの絵本と出会い、スロヴァキアに渡った降矢の人生と重なる絵本『たびにでよう』、『ナミチカのきのこがり』などを紹介しました。第3章「絵本が出来るまで」では、作家が書いたテキストを読み込み、想像を膨らませ、世界観や登場人物を形作る過程を紹介しました。第4章「広がる絵本世界」では、「おれたち、ともだち！」シリーズや『いそっぷのおはなし』など、多彩な絵本表現で描かれた作品を紹介しました。

また、企画展示室外では、降矢の絵本と室井滋館長の朗読を合わせた映像の上映や富山大学教育学部附属幼稚園の園児たちによる巨大絵画の展示も行いました。

関連イベントでは、降矢のトーク&サイン会やおはなし会、絵本フォーラムなどを開催し、絵本の魅力を伝えました。入場者特典として缶バッジを配布する「おたからこうかん」も実施し、多くの方々に原画とともに名作絵本を読む贅沢な時間をお楽しみいただきました。



エントランス 展示風景



企画展示室入口 展示風景



第1章「はじまりの絵本 絵本作家 降矢なな誕生」展示風景



第2章「旅だち ドウシャン・カーライとの出会い」展示風景



第3章「絵本ができるまで」展示風景



第4章「広がる絵本世界」展示風景

□関連行事

① 降矢なな トーク&サイン会

開催日	会場	参加者数
6月24日(土)	当館研修室101、ライブラリーコーナー	94名

② おはなし会&絵本フォーラム《絵本の魅力》

開催日	出演者	会場	参加者数
8月13日(日)	・室井 滋(当館館長・俳優・エッセイスト・絵本作家) ・土田 陽一 氏(射水市大島絵本館副館長) ・松崎 訓子 氏(富山市立図書館よみかかせの会) ・生田美秋	当館ライブラリーコーナー	95名

③ 富山県の絵本専門士がプロデュース 夏のおはなし会

開催日	内容	会場	参加者数
7月23日(日)	赤ちゃん対象	当館ライブラリーコーナー	56名
7月29日(土)	幼児対象		87名
7月30日(日)	小学生対象		59名
8月27日(日)	大人対象		78名

④ 担当者によるギャラリートーク(展示解説)

【開催日】 7月8日(土)、8月20日(日)、9月2日(土)

(2)企画展「富山新聞創刊 100 年記念

ドナルド・キーン 世界から見た日本文学展」

The Toyama Shimbun 100th Anniversary Exhibition

Donald Keene: Discovering Japanese Literature from a Global Perspective

会 期／令和 5 年 9 月 24 日 回～11 月 27 日 回

主 催／高志の国文学館、富山新聞社

共 催／チューリップテレビ

編集協力／キーン誠己

企画編集／県立神奈川近代文学館、

公益財団法人神奈川文学振興会

特別協力／一般財団法人ドナルド・キーン記念財団

協 力／コロンビア大学 C.V. スター東亜図書館、
東京都北区立中央図書館、公益財団法人ブルボン吉田記念財団 ドナルド・キーン・センター柏崎

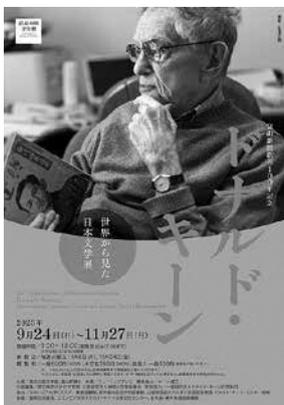
後 援／国際交流基金、コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター、在大阪・神戸米
国総領事館

担 当／生田美秋（総括） 大川原竜一（主務）

観覧者数／1,947 人

出品点数／244 点（パネル・バナーを含む）

印 刷 物／チラシ A 4 判 ポスター A 1 判



チラシ 表



チラシ 裏

趣旨・総括

太平洋戦争目前の1940年（昭和15）に偶然手にしたアーサー・ウェーリ訳『源氏物語』との運命的な出会いに導かれて、ジャパノロジストの道へと進み、日本文化の魅力を世界へ、そして日本の人々に伝えたドナルド・キーン（1922～2019）。アメリカと日本を往来しながら、古代から現代までの文学、歴史、芸能と幅広いジャンルの研究や翻訳に取り組み、後に続く日本文化研究者の教育にも力を注ぎます。

本展覧会は、キーンの著述や翻訳、執筆活動を通し

て、日本文学を世界的な視野で俯瞰し位置づけることを目的として、特別展「生誕100年 ドナルド・キーン展—日本文化へのひとすじの道」（県立神奈川近代文学館、2022年5月28日～7月24日）を再構成し、富山県オリジナルの展示資料をくわえたものでした。一般財団法人ドナルド・キーン記念財団の特別協力をえて、キーンの直筆原稿や著作、作家と交わした書簡などを展覧。世界から見た日本文学がもつ魅力や奥深さ、日本の文化の美しさを見つめなおすとともに、キーンが愛した能や文楽、歌舞伎などの伝統演劇、さらには谷崎潤一郎や川端康成ら作家との交遊を示しながら、日本人の精神を掘りさげました。

エントランスには、導入展示として上映コーナーを設置。キーンが1992年（平成4）に富山県生涯学習カレッジにて講演した際の「県民カレッジ夏季講座 ドナルド・キーン「世界の中の日本文化」」の映像と、国際交流基金企画・NHKエデュケーショナル制作の「日本文学を世界へ～ドナルド・キーンの生涯～」の映像により、キーンの生涯と研究を分かりやすく知ることができるようになりました。

企画展示室内においては、平安時代から江戸時代の日記文学を論じた『百代の過客』や、ライフワークとなった『日本文学の歴史』などの著作を展示。また、日本の文学にとどまらず、伝統芸能を自ら体験することで日本文化の本質をとらえてその魅力を国内外に発信した、キーンの事績を多角的に紹介しました。さらにここでは、ドナルド・キーン・センター柏崎より提供いただいた「ドナルド・キーン、作家を語る」という生前のインタビュー映像を流しました。

関連イベントとしては、オープニング記念講演を開催し、キーンの子息でドナルド・キーン記念財団代表理事のキーン誠己氏に、「父ドナルド・キーンの思い出」という演題で、日本研究者のキーンが芸能や文化なども含めて日本を深く愛していたこと、父キーンと自身とのエピソードや富山との関わりをお話いただきました。また会期中には、文芸評論家の尾崎真理子氏をお招きし、キーンと作家三島由紀夫との交遊関係についてご講演いただきました。さらには、アメリカやベトナム、中国、韓国などから来県した富山県国際交流員（富山県国際課に勤務し、国際交流・多文化共生の

推進に取り組む方々)によるトークイベントを開催。母国で見つけた日本文学や日本文化の事例について写真をまじえて紹介していただきました。

なお本展と同時期には、松山市立子規記念博物館の特別企画展「ドナルド・キーンのみた「正岡子規」」

俳句革新者の探究—」(9月2日~10月16日)、および田原市博物館の「ドナルド・キーンと渡辺崋山」(10月7日~12月3日)が開催されたため、各館と協力して展覧会の広報をおこないました。



第1章「ドナルド・キーンのルーツ」



第2章「碧い眼の日本学者—文学者との交遊」



第3章「時を旅する—世界から見た日本文学」

第4章「日本人の心性を探る」



「創作の現場」

□関連行事

① オープニング記念講演「父ドナルド・キーンの思い出」

開催日	講師	会場	参加者数
9月24日(日)	キーン誠己 氏(ドナルド・キーン子息、一般財団法人ドナルド・キーン記念財団代表理事、浄瑠璃三味線奏者)	当館研修室101	96名

② 講演「ドナルド・キーン氏と現代日本の作家たち」

開催日	講師	会場	参加者数
10月7日(土)	尾崎 真理子 氏(文芸評論家)	当館研修室101	48名

③ トークイベント「国際交流員が語る「日本人と日本文化」」

開催日	出演者	会場	参加者数
11月12日(日)	富山県国際交流員(CIR) (アリス・リース 氏(アメリカ出身) グエン・ティ・タオ 氏(ベトナム出身) 鄒 超 氏(中国出身) アリーネ・アケミ・ヤマシタ 氏(ブラジル出身) 李 該敏 氏(韓国出身) パーガワトゥラ・シリラリティヤ 氏(インド出身))	当館研修室101	36名

④ 担当学芸員によるギャラリートーク(展示解説)

【開催日】10月8日(日)、10月22日(日)、11月19日(日)

(3)企画展「没後 50 年 コスモポリタン 翁久允 OKINA Kyuin 脱日本人！ 展」

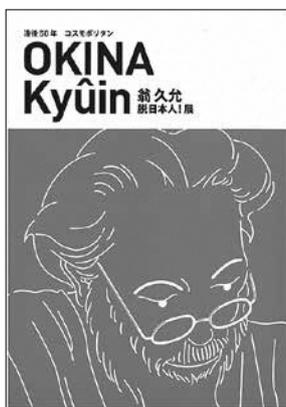
会 期／令和 5 年12月16日国～
 令和 6 年 3 月 4 日国
 主 催／高志の国文学館
 共 催／北日本新聞社、北日本放送
 特別協力／須田満
 担 当／生田美秋（総括） 小林加代子（主務）
 観覧者数／2,502人
 出品点数／234点
 印刷物／チラシA 4判 ポスターA 1判
 図録A 4判（80頁）



チラシ 表



チラシ 裏



図録表紙

趣旨・総括

望遠鏡で世界を観察し、顕微鏡で祖国を掘りさげて観察しよう

（「わが一生 印度旅行後」より）

翁久允（おきな・きゅういん 1888～1973）は、現在の富山県立山町出身の小説家・ジャーナリストです。1907年、19歳でアメリカへ渡り約18年を過ごしました。帰国して『週刊朝日』の編集に携わり、作家としても小説や随筆を発表し、多くの文壇人と交遊しました。

1931年、画家の竹久夢二とともに再び渡米、1933年にはインドに旅して詩人・タゴールを訪ねます。両国での経験は、小説『悪の日影』、評論集『宇宙人（コスモポリタン）は語る』、『今日の印度』などに記されています。1936年、富山で郷土文化誌『高志人』を創刊、生涯を通じて刊行を続けました。

本展では、新たに受贈した9,314点の翁久允旧蔵資料を中心に、明治末から大正期にアメリカに暮らし、昭和初期にインドを歩き、移民社会の実態と文明の相克を目の当たりにした経験をもとに、世界的な視野をもって郷土の歴史と文化を知ることの重要性を伝え続け、共有する場をつくり、多くの人とともに歩み続けた翁久允の仕事を紹介しました。展示構成は、第1章「親不孝者になる 六郎谷から富山、東京、そしてアメリカへ」、第2章「ジャップの群の中 シアトルからカリフォルニアへ」、第3章「不思議な半日本人、半外人 朝日新聞社時代」、第4章「惚れてゐたが故に 竹久夢二とアメリカへ」、第5章「そのままのいのだ インドでタゴールを訪ね、仏跡を巡る」、第6章「望遠鏡で世界を観察し、顕微鏡で祖国を掘りさげて観察しよう 『高志人』創刊」、第7章「脱日本人 『高志人』と三尊道舎」としました。各章の主題は、翁久允自身の言葉から引用しました。

あわせて、翁久允の著作をもとに新作された室井滋と長谷川義史の絵本『キューちゃんの日記』（北日本新聞社、2003年）の原画を展示しました。



企画展示室入り口からの概観



第2章から第3章の展示



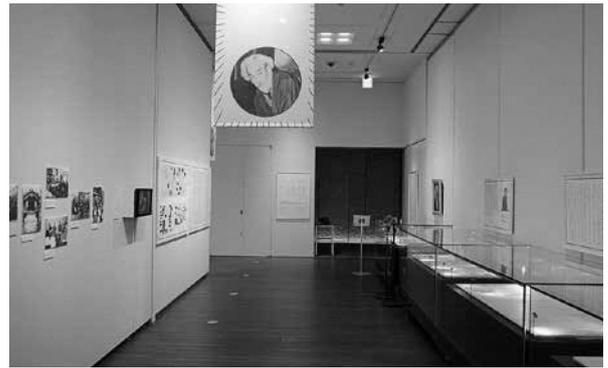
第4章～第6章の展示



第6章より 創刊号から終刊号までの『高志人』(手前)と製本冊子(奥)



第6章より 翁久允自筆の書画軸(壁面)と日記(手前)



第7章の展示

□関連行事

① 特別上映会&制作担当者によるトーク

開催日	トーク	上映作品	会場	参加者数
12月16日(土)	松本 芽久美 氏 (北日本放送メディア本部報道デスク)	「翁久允のことば 自分を愛し 世界を愛す」(KNB ふるさと スペシャル 2023年11月26日 放送 25分)	当館ライブ ラリーコーナー	100名

② 記念対談 翁久允のアメリカ・インド・富山

開催日	講師	会場	参加者数
12月16日(土)	須田 満 氏(公益財団法人翁久允財団代表理事) 水野 真理子 氏(富山大学学術研究部准教授)	当館研修室101	72名

③ 室井滋・作、長谷川義史・絵 絵本『キューちゃんの日記』トーク&朗読会

開催日	出演者	会場	参加者数
12月24日(日)	館長 室井 滋 長谷川 義史 氏(絵本作家)	当館ライブ ラリーコーナー	109名

④ 高校生が読む翁久允の英文小説「In the King of God」(朗読と意見交換会)

開催日	出演者およびコーディネーター	会場	参加者数
12月24日(日)	県立富山高等学校 ESS 部の皆さん 水野 真理子 氏(富山大学学術研究部准教授)	当館研修室101	25名

⑤ 展示担当者によるギャラリートーク(展示解説)

【開催日】 1月27日(土)、2月10日(土)、2月24日(土)

(4)企画展「堀辰雄生誕 120 年展 『風立ちぬ、堀辰雄と軽井沢の文学者たち』

会 期／令和 6 年 3 月 23 日 国～ 6 月 3 日 国

主 催／高志の国文学館

共 催／北日本新聞社、富山テレビ放送

協 力／堀辰雄文学記念館、軽井沢高原文庫

担 当／生田美秋（統括）、綿引香織（主務）

観覧者数／1,932人

出品点数／251点

印刷物／チラシ A 4 判 ポスター A 1 判



チラシ 表



チラシ 裏

趣旨・総括

堀辰雄（1904～1953）は、一高生だった大正12年（1923）の夏、室生犀星に伴われて初めて軽井沢を訪れ、その独特の雰囲気魅了されます。その後も師である芥川龍之介や片山廣子、萩原朔太郎などの文学者と交流し、療養を兼ねてたびたび滞在。やがてこの地は、彼の文学にとって欠かせない場となっていきます。

堀は日本の私小説に飽き足らず、プルーストやリルケ、モーリヤックなど西洋文学の手法を採り入れたロマン（西洋の本格的な長編小説）を追求して、愛と青春、生と死などのテーマに挑み、『美しい村』『風立ちぬ』『菜穂子』などの作品を発表しました。これらは今なお若い世代の読者を魅了し続けています。また、日本の古典文学にも目を向け、『かげろふの日記』などの作品も著しました。

本展では、堀と軽井沢との関わりをたどりつつ、清新で詩心にあふれる堀の作風確立の過程と作品世界を、原稿、書簡、蔵書などの貴重な資料で紹介しました。あわせて、片山廣子による芥川龍之介宛書簡（当館蔵）を特別公開し、堀と交流の深かった軽井沢ゆかりの文学者たちを紹介しました。

導入展示「軽井沢へのいざない」では、軽井沢や自分の地と堀作品との関係を、美しい写真や地図、パネ

ル、朗読音声等で紹介。また、作品・作家についての導入となる「はじめての堀辰雄質問箱」、おすすめの堀辰雄作品や小説・恋愛小説を投稿していただくアンケートポストを設置しました。

第1章「作家 堀辰雄の出発—『聖家族』発表まで」では、室生犀星・芥川龍之介という2人の師を得た堀が、文学修行や人生経験を経て、出世作「聖家族」を完成させるまでの軌跡を紹介。その後の作品に大きな影響を与えた大正12～14年の軽井沢体験や、「聖家族」のモデルとなった片山廣子・總子母娘との交流を示す資料も展示しました。

第2章「作家である『私』の物語—『美しい村』と『風立ちぬ』」では、堀の実生活を反映した2つの代表作の作品世界について、執筆にあたって影響を受けたプルーストなどの作品やその研究ノート、作品構想を語るノート、関連資料や写真などにより紹介。あわせてこの時期に堀が創刊した詩誌「四季」を展示しました。

第3章「〈ロマン〉追求の軌跡—『菜穂子』の系譜」では、私小説とは異なる本格的な小説を書こうとする堀の試みを、作品構想や人物像に影響を与えたモーリヤックやリルケに関する蔵書や研究ノート、創作ノートなどにより紹介。あわせて、蓄音機や文房具など、堀辰雄の愛用品も展示しました。

第4章「日本の古典文学と西洋文学との融合—『かげろふの日記』から『大和路・信濃路』まで」では、蔵書や構想ノート、原稿などにより、日本の古典文学を題材にしたいくつかの作品の創作過程を紹介。また、構想段階に終わった古代小説に関する創作ノートなども展示。あわせて、晩年の文学活動や交遊関係についても紹介しました。

また、関連行事として、大藤敏行氏、飯島洋氏による講演、県立富山中部高等学校文芸部による読書会、担当学芸員による展示解説を開催しました。



導入展示「軽井沢へのいざない」



第1章 展示風景



第2章 展示風景



第3章 展示風景



第4章 展示風景

□関連行事

① 講演

開催日	講師	演題	会場	参加者数
3月23日(土)	大藤 敏行 氏 (軽井沢高原文庫館長)	「堀辰雄と軽井沢—軽井沢を愛した文学者たち—」	当館研修室101	52名

② 講演

開催日	講師	演題	会場	参加者数
4月14日(日)	飯島 洋 氏 (金沢大学人間社会研究域准教授)	「堀辰雄とその時代—戦争、軽井沢、堀田善衛—」	当館研修室101	53名

③ 読書会「高校生と堀辰雄作品を読んでもみる」

開催日	講師	演題	会場	参加者数
4月27日(土)	富山県立中部高等学校 文芸部のみなさん	文芸部員おすすめの堀辰雄作品を紹介し、その作品についてフリートーク	当館研修室101	19名

④ 担当学芸員による展示解説（ギャラリートーク）

【開催日】 4月13日(土)、5月4日(土祝)、5月25日(土)

2. 資料概況

□資料数

		印刷物 (書籍・雑誌・冊子等)	自筆資料			美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	書簡	絵画・書跡、その他						
～R4	購入	16,803	184	226	150	6	81	445	2	116	18,013
	寄贈	50,650	1,424	5,442	2,895	893	1,874	899	98	310	64,485
	製作	11	28	5	40	19	1	7	0	21	132
	小計 (A)	67,464	1,636	5,673	3,085	918	1,956	1,351	100	447	82,630
R5	購入	331	2	1	1	0	0	49	0	0	384
	寄贈	2,100	879	5,879	1,092	0	162	5	14	0	10,131
	製作	1	3	0	1	0	0	0	0	0	5
	小計 (B)	2,432	884	5,880	1,094	0	162	54	14	0	10,520
～R4+R5合計		69,896	2,520	11,553	4,179	918	2,118	1,405	114	447	93,150

令和2年度に資料分類の見直しを行い、令和3年度の受入資料から新分類基準を適用。

(令和2年度までの資料数の統計は、旧分類基準に依拠している。)

旧分類での「原画」は「絵画・書跡、その他」(前回までは「色紙・短冊・一枚もの、その他」と表記)へ統合。

□主な新収蔵資料

寄 贈

作者等	資料名
翁久允	翁久允旧蔵資料(自筆原稿等を含む) 9,314点
柏原兵三	柏原兵三関連資料 19点
逸見久美氏ほか	逸見久美氏著書・自筆資料等 38点
翁久允	翁久允関連資料 3点

購 入

作者等	資料名
小寺菊子	草稿「子は反逆する」(200字詰原稿用紙63枚)
冠松次郎	草稿「黒部探検記(序文)」「黒部探検記(目次概要)」(200字詰原稿用紙4枚、400字詰原稿用紙4枚)
堀田善衛	堀田善衛色紙額
高島高	書簡 牧章造宛 葉書 1951年4月28日消印

3. 教育・普及事業

令和5年度は、4月1日に俳優・エッセイストの室井滋が2代目館長として就任し、新たに「室井滋の文学サロンきときとの仲間たち」「室井滋の夜噺」「夏のこどもフェスティバル」など、高志の国文学館内で、多彩なイベントを実施した。

新規事業

□室井滋の文学サロンきときとの仲間たち

開催日／令和5年7月15日(土)、10月9日(月・祝)、
12月3日(日)

参加者／計 334名

室井滋 館長が作家、俳優、アーティスト、研究者など多彩な分野のいまが旬・キトキトのゲストをお迎えして講演と対談を行う新シリーズ。

第1回はゲストに小説家・中島京子さんをお迎えし、小説やエッセイの描き方の話を中心に、第2回は映画監督・本木克英さんの映画作りや撮影の裏話についての講演、第3回は白鷗大学教授・岡田晴恵さんが昨今注目されている様々な感染症についてお話いただきました。



開催日	出演者	講演題	観覧者数
7月15日(土)	中島 京子 氏 (小説家)	「書くよろこび・読むたのしみ」	121名
10月9日(月・祝)	本木 克英 氏 (映画監督)	「文学を映像化するために」	100名
12月3日(日)	岡田 晴恵 氏 (白鷗大学教授)	「今、知っておきたい感染症と上手な乗り切り方」	113名

□室井滋の夜噺

開催日／令和5年8月5日(土)、令和6年3月24日(日)

参加者／計 540名

室井滋 館長が富山県出身の役者仲間を迎えての朗読&トークイベントを開催。

第1回は室井滋 館長と俳優の内浦純一さんが、高志の国文学館にも展示されている小泉八雲の作品を朗読、第2回は室井滋 館長と俳優の西村まさ彦さんが開催中の企画展にあわせて「堀辰雄作品」を朗読され、聴衆を魅了しました。



開催日	出演者	作品	観覧者数
8月5日(土)	内浦 純一 氏 (俳優)	小泉八雲の作品から「むじな」「破られた約束」	270名
3月24日(日)	西村 まさ彦 氏 (俳優)	堀辰雄作品から「末摘花」「死の素描」、落語「しばはま」	270名

夏のこどもフェスティバル

開催日／令和5年7月26日(金)～8月26日(土)

高志の国文学館で夏休みの期間に子ども向けイベントを開催。

「室井滋の“きとっぴ”と遊ぼう&学ぼう！」や「クイズラリーこどもチャレンジ」など新たなイベントで、子どもや家族連れが数多く文学館に来館。



夏のこどもフェスティバル各種イベント

□クイズラリーこどもチャレンジ

開催日／令和5年7月26日(金)～8月26日(土)

参加者／536名

高志の国文学館に関するクイズシートを作成。参加者には、室井館長デザインの缶バッジをプレゼント。

□室井滋の“きとっぴ”と遊ぼう&学ぼう！

開催日／令和5年8月11日(金)・(祝)

参加者／240名

文学館にNHK富山放送局マスコットキャラクター“きとっぴ”が登場。室井館長とのトークやダンスイベントを開催。併せてワークショップ（ポシェットづくり）も実施。

また、山の日記念として写真家 星野秀樹氏のトークイベントとサイン会も開催。

□森の学校（絵本づくり）

開催日／令和5年7月22日(土)

会場／高志の国文学館研修室101

参加者／16名

開催中の企画展「絵本作家 降矢なな原画展」より講師に降矢なな氏を迎え、絵本づくりをするイベントを開催。



□子ども読書会～読書感想文に生かそう

開催日／令和5年7月23日回

場 所／高志の国文学館研修室101

参加者／8名

「原稿用紙がうまらない」、「何を書けばいいかわからない」といった声にお応えするため、小学校3～4年生を対象に、読書感想文の書き方講座を実施。

今回は、富山大学の学生と一緒に読書会をし、感想文にまとめた。



□目指せジュニア学芸員！

開催日／令和5年7月29日回、8月6日回、
8月26日回

場 所／高志の国文学館研修室101、企画展示室

参加者／計10名

学芸員の仕事を体験後、展示解説に挑戦するイベントを開催。

高志の国文学館の学芸員が、学芸員の仕事について、参加した小学生に説明し、最後は参加者自らが、展示を調査し、来館者に解説を実施した。



□目指せ声優 アフレコ体験教室

開催日／令和5年8月5日回

場 所／高志の国文学館研修室101

参加者／9名

芸能オフィスリレーシヨンの講師をお招きし、アフレコチャレンジ教室を開催しました。講師の方のお手本の後、グループごとに分かれて配役や台本の読み合わせを行い、その後、実際の映像に合わせて吹き替えを行いました。



□目指せイラストレーター イラスト体験教室

開催日／令和5年8月19日回

場 所／高志の国文学館研修室101

参加者／25名

オフィスリレーションの講師をお招きし、イラスト体験教室を開催。絵を描くためのノウハウを学び、キャラクターデザインを体験しました。



県立施設とのコラボ企画

□富山県立大学とのコラボ企画

県立大学の学生と一緒にアニメとマンガで地域を学ぼう

開催日／令和5年12月17日回

会 場／高志の国文学館研修室101

講 師／大石玄 氏

(富山県立大学教養教育センター教授)

富山県立大学の学生

参加者／35名

富山県立大学では、ゼミの一環として、「アニメ」や「マンガ」という架空世界の中に現実の風景が取り入れられている作例から、コンテンツと地域の結びつきを考察しており、その研究発表を学生が行った。



□たてはく in 高志の国文学館 「立山曼荼羅」 と立山信仰の世界

開催日／令和6年2月4日回

会 場／高志の国文学館研修室101

講 師／細木ひとみ 氏 (立山博物館 学芸員)

参加者／150名

高志の国文学館で展示する「立山曼荼羅」宝泉坊本(個人蔵)を中心に、立山曼荼羅の魅力について、立山博物館の学芸員が講演した。



大伴家持生誕1300年記念事業

□第3回大伴家持文学賞及び第3回高志の国詩歌賞贈呈式

開催日／令和5年7月16日回

会場／ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳」

参加者／170名

越中において数々の秀歌を生んだ大伴家持の生誕1300年を記念して、2017年に、世界のすぐれた詩人の業績を顕彰する大伴家持文学賞及び富山ゆかりの詩歌を対象とした高志の国詩歌賞を創設し、第3回目の実施。

第3回大伴家持文学賞には、フランス出身の詩人・ジャン＝リュック・ステンメッツ氏、第3回高志の国詩歌賞には、堀田季何氏が選ばれた。式典では、選考委員長を務めた中西進前高志の国文学館館長が選考理由の報告を行い、室井滋高志の国文学館館長から受賞者にメダルが手渡された。その後、ジャン＝リュック・ステンメッツ氏が受賞記念講演を行い、室井館長と選考委員でもある松浦寿輝氏（詩人・作家）による朗読、澤武紀行氏（テノール歌手）による歌唱を行いました。

また、詩歌賞の授賞式では、室井滋高志の国文学館館長から受賞者に、賞状とトロフィーが手渡され、その後、堀田季何氏による受賞者あいさつが行われた。



概要

- 式辞（富山県知事 新田八朗 代理
富山県生活環境文化部長 廣島伸一）
- 第3回大伴家持文学賞及び第3回高志の国詩歌賞贈呈式
- 第3回大伴家持文学賞受賞者 受賞記念講演
ジャン＝リュック・ステンメッツ 氏
- 朗読と音楽
朗読 詩人・作家 松浦寿輝 氏
高志の国文学館館長 室井滋
歌唱 テノール歌手 澤武紀行 氏

その他のイベント

□春花の集い2023

開催日／令和5年4月16日(日)

会場／研修室101 (ステージ発表)

ライブラリーコーナー (作品展示)

参加者／150名

令和5年4月16日(日)、開催中の企画展「百人一首 ― 和歌と美の世界展」にちなみ百人一首の朗唱、洋舞や日舞などの文化に親しむ「春花の集い2023」を開催。

可西舞踊研究所と和田朝子記念 Air Ballet Studio による洋舞に始まり、室井館長らによる「百人一首」の特別朗唱・朗読、藤間松山社中による日舞など様々な演目が披露された。最後は、富山県邦楽協会による箏曲演奏で締めくくった。

その他、高志の国文学館の研修室を利用している芸術文化団体による作品展示や、いけばな展示が行われ、会場は多くの人で賑わった。



□高校生のための令和万葉教室

県内の高校生に対して大伴家持・越中万葉の魅力の普及啓発を行うため講演を実施。

開催日	実施校	講師	演題
7月13日(木)	富山いずみ	東京大学教授 品田 悦一 氏	『万葉集』に投影された幻想―東歌の一首をめぐって
7月31日(月)	高岡向陵	大東文化大学教授 蔵中 しのぶ 氏	大伴家持「立山の賦一首並びに短歌」を読む
12月6日(水)	南砺平	國學院大學教授 (特別選任) 上野 誠 氏	古典に学ぶ、今、ここで
12月13日(水)	福岡	高岡市万葉歴史館館長 藤原 茂樹 氏	越中における大伴家持の遊び―鵜飼―
12月18日(火)	富山商業	國學院大學教授 (特別選任) 上野 誠 氏	古典に学ぶ、今、ここで

□高志プロジェクトの実施

開催日／令和5年5月27日(土)

会場／高志の国文学館研修室101

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループや個人を公募・選考し、優れた者に奨励金を交付する「高志プロジェクト」を行っている。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、令和5年度には3者が選ばれ、認定証交付式が実施された。あわせて前年度認定者による研究成果報告会も行われた。



【令和5年度認定者】

	代表者氏名	研究課題名
1	角田 佑一 氏 (上智大学神学部助教)	角川源義の初期文学・思想の研究
2	野口 英佑 氏 (神戸大学大学院国際協力研究科部局研究員)	日本統治時代初期・台湾における中辻喜次郎の企業家および政治家としての活動とその影響
3	山田 範子 氏 (金沢星稜大学女子短期大学部准教授)	富山ゆかりのマンガ作品の分析と教材開発

【令和4年度認定者による研究成果報告会】

	代表者氏名	研究課題名
1	伴野 文亮 氏 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」 教育研究センター特任教授	明治・大正期の富山における俳諧「旧派」の研究
2	山吉 頌平 氏 早稲田大学文化構想学部 多元文化論系助手・ 早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース在籍中	中世立山信仰の探求—近世縁起の分析を中心にして—
3	Robert F. Wittkamp (ローベルト・ヴィットカンプ) 氏 関西大学文学部教授	家持の「歌日記」の物語性 —ナラトロジーから接近する試み

□観月の集い2023

開催日／9月30日(土)

会場／ライブラリーコーナー

参加者／100名

令和5年9月30日(土)、中秋の名月の日にちなみ、「観月の集い2023」を開催。

舞台発表は、第1部“月を詠む”短歌の夕べ、第2部“月を愛でる”朗読と音楽の夕べの2部制で実施。

「第1部“月を詠む”短歌の夕べ」では、月にちなんで短歌を募集し、優秀作の発表と朗唱を実施。

「第2部“月を愛でる”朗読と音楽の夕べ」では、アナウンサーの垣田文子氏による朗読に二胡奏者の張鶴(チャン・ハ)氏と桑原晶子氏のピアノ演奏を合わせた朗読と音楽のステージが披露され聴衆を魅了しました。

また、文学館の研修室で活動されている芸術・文化団体による作品展示や富山県華道連合会によるいけばな展示も行われました。



□朗読と音楽の夕べ2023

10月から12月にかけて、県内アナウンサーによる富山県ゆかりの文学作品などの朗読と、音楽演奏を組み合わせた「朗読と音楽の夕べ」を開催。

第1回はサン＝テグジュペリ「星の王子様」、第2回はNHK国際放送が選んだ日本の名作『1日10分のしあわせ』、第3回は令和5年度の企画展に合わせた作品の朗読が行われた。



開催日	出演者	作品	観覧者数
10月21日(土)	朗読：小西 鼓子 氏 (チューリップテレビ) 演奏：井上 貴信 氏 (チェロ)	サン＝テグジュペリ 『星の王子様』	96名
11月17日(金)	朗読：深津 麻弓 氏 (富山テレビ放送) 演奏：岩本 剛輝 氏 (ピアノ)	NHK国際放送が選んだ日本の 名作『1日10分のしあわせ』 坂木司「迷子」 重松清「バスに乗って」	67名
12月23日(土)	朗読：木下 一哉 氏 (北日本放送) 演奏：杉原 夏海 氏 (フルート) 中川 佳美 氏 (ピアノ)	翁久允 「わが一生 上巻『生いたちの記』」	76名

□絵てがみ教室

開催日／11月25日 田こどもの部（中学生以下）

11月26日 回一般の部（高校生以上）

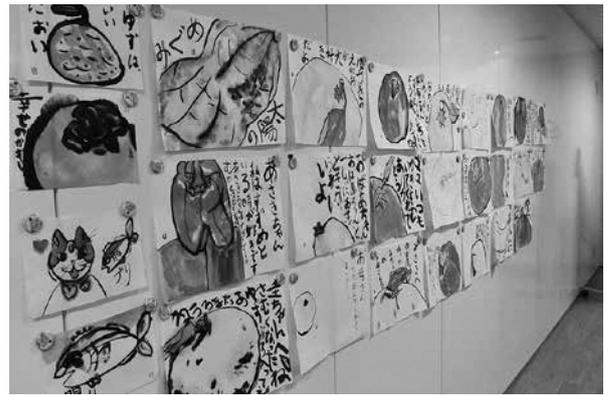
会 場／高志の国文学館研修室101

講 師／吉野仁 氏（富山絵手紙の会会長）

参加者／計53名

令和5年度から見る・聞くだけではなく「創る」文学の楽しさを味わう絵手紙教室を開催。

講師に吉野仁氏（富山絵手紙の会会長）を迎え、小学生から大人まで幅広い世代の方が「創る」楽しさを体験していた。



□書道パフォーマンス

開催日／12月9日 田

会 場／エントランス

出 演／富山県立富山高校書道部

参加者／50名

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求し、新たな文化を創造することを目指して、書道パフォーマンスを開催しました。

作品は企画展「没後50年 コスモポリタン 翁久允 OKINA Kyuin 脱日本人！展（令和5年12月16日～令和6年3月4日）の開催中、エントランスに展示しました。



□ミュージアムコンサート

開催日／令和6年2月9日 田

会 場／ライブラリーコーナー

参加者／77名

県にゆかりのある若手演奏家の発表の機会を創出するとともに、県民の皆さんに、身近な場所で質の高い音楽鑑賞の機会を提供するため、美術館や歴史的建造物などを活用したミュージアムコンサートを開催。

演奏は坂田 美子 氏（琵琶・歌・語り）。



□令和5年度文学講座

令和5年度の文学講座は、「大学連携シリーズ」、と新たに開設した「富山を知る・学ぶ」を開催した。

大学連携シリーズ

開催日	講師	講座名	受講者数
5月20日(土)	高岡法科大学法学部 准教授 向井 理恵 氏	俳句を認知言語学の観点から考える —「間」のいい俳句とは—	54名
6月18日(土)	富山大学特別研究教授 富山大学未病研究センター 企画研究リーダー 門脇 真 氏	超早期発症前予測と未病創薬による百寿までの Disease-Free Society の実現	40名
6月25日(日)	富山国際大学 子ども育成部 准教授 本江 理子 氏	「子ども時代」を生きる子どもたちと保育者の 世界	35名
7月1日(土)	富山大学学術研究部 教育研究系講師 塩見 一三男 氏	雪かきで地域が育つ ～共助による地域除雪の様々な展開～	20名

富山を知る・学ぶシリーズ

開催日	講師	講座名	受講者数
9月16日(土)	元富山大学人文学部教授 宮内 伸子 氏	柏原兵三とドイツ文学	37名
10月14日(土)	多摩美術大学アートアーカイヴ センター所長 大学院教授 光田 由里 氏	詩人と物質 瀧口修造と前衛美術	41名
10月15日(日)	元富山県立図書館長 立野 幸雄 氏	岩倉政治 ～故郷への愛着と信仰、そして、救済の実践～	42名
11月18日(土)	評論家 松澤 俊二 氏	「信念を貫いた政治家松村謙三」 ～若き日の体験から～	40名

□ G7パネル展示

開催日／令和5年6月7日(金)～6月18日(日)

会場／高志の国文学館エントランスロビー

令和5年5月12日～5月15日にかけて、富山県富山市・石川県金沢市でG7教育大臣会合が開催された。その概要を写真ベースでまとめた14枚のパネルの展示、ショーケースを使って、大臣に手渡された記念品を紹介。



□「高志の国文学」情景作品コンクール

開催日／令和5年11月15日(金)～11月30日(木)

会場／高志の国文学館エントランスロビー

このコンクールは、「ふるさと文学」に親しみ、郷土を一層深く理解しようとする機運を高めることを目的に、県内の中学校、高等学校、高等専門学校（3年まで）、特別支援学校（中学・高等部）を対象に募集した。



□文学館教育・啓発アウトリーチ事業

著名な作品や富山ゆかりの作品のパネルを小・中・高校等向けに貸出。

またライブラリーコーナーでは、「詩をよむ喜び・楽しみ」パネルの一部を展示紹介。



(県立富山高等学校他内百周年記念館)

4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年6月18日、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

令和5年度は、3年ぶりに主要イベントである県内バスツアー及び研修旅行を開催したほか、高志の国文学館併設レストラン「シェ・ヨシ」にて新たに館長に就任した室井滋 館長を囲む茶話会、そして、富山県民会館との連携による「かしまし三銃士スペシャルイベント in 高志の国文学館」を開催した。

会員数	485名(令和6年3月31日現在)		
一般会員	336		
法人会員	9		
5年会員(個人)	117	5年会員(法人)	0
賛助会員(個人)	16	賛助会員(法人)	4
学生会員	3		

会費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
5年会員(個)	10,000円
5年会員(法)	100,000円
賛助会員	一口10,000円

特典

- ・文学館ニュースや各種行事案内の配布
- ・文学館及び友の会主催行事への優先参加
- ・文学館が発行する図録等の割引購入
- ・文学館内レストランの飲み物代優待

令和5年度事業

【県内バスツアー】

- ・国宝勝興寺探訪と傑作映画「人生の約束」ロケ地めぐり
令和5年9月17日(日)
勝興寺、伏木北前船資料館、「人生の約束」ロケ地めぐり
- ・大コメ騒動ロケ地と美術館めぐり
～黒部峡谷トロロコ電車・下山芸術の森発電所美術館～
令和6年3月3日(日)
開催中の企画展(翁久允展)の観覧、「大コメ騒動」ロケ地めぐりなど

【研修旅行】

- ・京都・近江百人一首の旅・徳川家ゆかりの地を訪ねて！金地院特別拝観(長谷川等伯「猿猴捉月図」と八窓席茶屋)
令和5年7月21日(金)、7月22日(土)
石山寺、近江神宮、南禅寺 金地院、方広寺、嵯峨嵐山文華館、二条城ほか
- ・新潟文学ゆかりの地を訪ねて
令和5年11月10日(金)、11日(土)
ドナルド・キーン・センター柏崎、旧齋藤家別邸、山本五十六記念館、宝山酒造、小川未明文学館ほか

【連携事業】

- ・レストラン「シェ・ヨシ」との連携による「室井館長と一緒に茶話会」
令和5年8月23日(水)、24日(木)
- ・富山県民会館との連携による「かしまし三銃士スペシャルイベント in 高志の国文学館」
令和6年1月21日(日)

理事会

令和5年5月22日(水)

Ⅲ 管理・運営

1. 利用状況

(1)入館者数・観覧者数

区分	会期	日数	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者計	1日 あたり
百人一首 — 和歌と美の世界 展	R5.4.1～ R5.6.5 (R5.3.19～ R5.6.5)	57 (68)	18,798 (22,975)	3,027 (3,600)	2,850 (3,359)	5,877 (6,959)	103 (102)
絵本作家 降矢なな原画展	R5.6.24～ R5.9.4	63	20,730	5,519	4,535	10,054	160
ドナルド・キーン 世界から 見た日本文学展	R5.9.24～ R5.11.27	54	17,381	1,947	1,529	3,476	64
没後50年 コスモポリタン 翁久允 OKINA Kyuin 脱日本人！展	R5.12.16～ R6.3.4	63	18,039	2,502	1,972	4,474	71
堀辰雄生誕120年展 “風立ちぬ”堀辰雄と 軽井沢の文学者たち	R6.3.23～ R6.3.31 (R6.3.23～ R6.6.3)	8 (63)	2,763 (19,754)	237 (1,932)	240 (1,872)	477 (3,804)	60 (60)
常設展のみ		60	16,499		766	766	13
常設展入れ替え（ライブラリーのみ）							
合計		305	94,210	13,232	11,892	25,124	82
休館日		61					

開館日数/305日 うち臨時開館 2日（5月9日、8月15日）

休館日数/61日

開館時間/9時30分から18時まで（観覧受付は17時30分まで）

休館日/火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12月29日から1月3日）

※年度をまたぐ企画展については令和5年度分の実績（上段）と会期全体の実績（下段）を併記

(2)研修室の利用状況

年	月	開館日数	休館日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
5	4月	26	4	34	483	20	93	39	251
	5月	26	5	28	499	14	56	33	218
	6月	26	4	30	516	16	81	41	254
	7月	27	4	29	380	20	80	45	246
	8月	26	5	32	474	28	106	38	221
	9月	26	4	24	584	20	129	40	215
	10月	26	5	27	655	14	51	39	246
	11月	24	6	37	510	22	101	37	180
6	12月	24	7	24	403	19	110	29	208
	1月	24	7	13	66	8	45	26	163
	2月	24	5	36	701	21	86	42	376
合計	3月	26	5	31	565	21	106	39	252
	合計	305	61	345	5,836	223	1,044	448	2,830

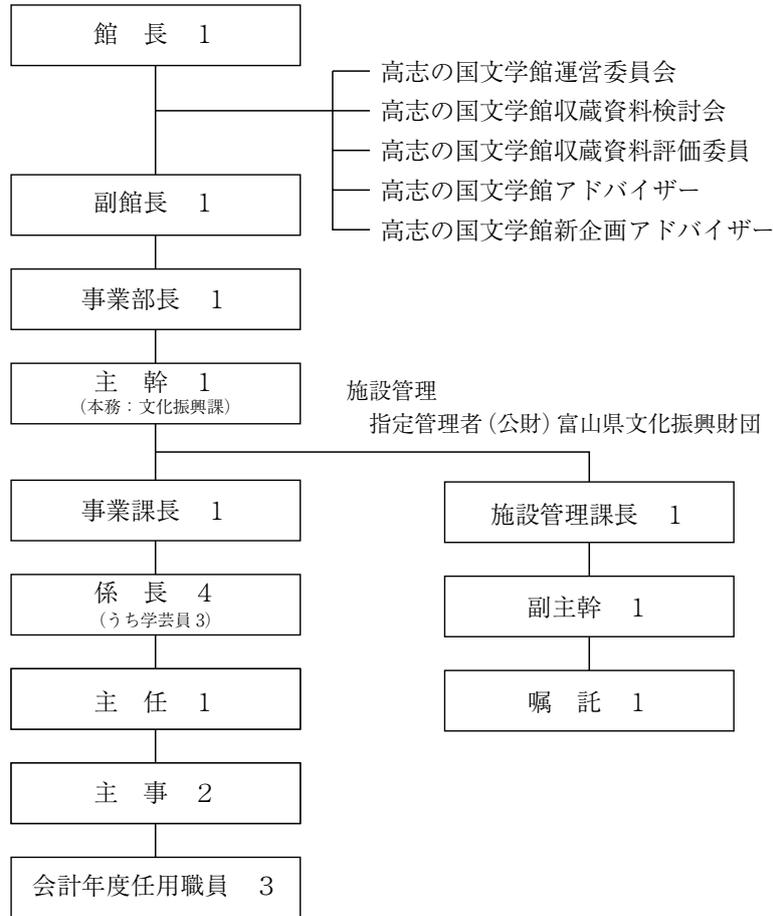
年	月	研修室201		研修室202		和室		合計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
5	4月	23	60	16	34	22	50	154	971
	5月	27	81	14	44	21	59	137	957
	6月	27	77	27	69	23	66	164	1,063
	7月	32	85	31	58	30	69	187	918
	8月	38	78	23	68	16	44	175	991
	9月	38	91	31	84	29	68	182	1,171
	10月	29	67	19	42	19	44	147	1,105
	11月	31	76	27	56	14	33	168	956
	12月	25	58	18	45	21	49	136	873
6	1月	19	48	10	30	17	43	93	395
	2月	24	59	11	27	21	51	155	1,300
	3月	32	96	27	64	19	42	169	1,125
合計	合計	345	876	254	621	252	618	1,867	11,825

(3)年度別利用状況

区分	開館日数	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者 合計	1日 当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
平成26年度	305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	1,650	14,875
平成27年度	305	107,391	13,133	16,341	29,474	97	1,592	13,196
平成28年度	303	108,138	13,839	16,260	30,099	99	1,817	14,104
平成29年度	308	109,466	16,070	17,279	33,349	108	1,959	14,067
平成30年度	306	104,208	22,402	22,172	44,574	146	1,836	13,116
平成31年度	308	116,548	27,456	27,497	54,953	178	2,024	13,466
令和2年度	287	62,154	9,384	8,362	17,746	62	1,322	6,993
令和3年度	279	58,868	7,950	7,374	15,324	55	1,439	7,618
令和4年度	303	70,089	8,907	8,511	17,418	57	1,612	9,486
令和5年度	305	94,210	13,232	11,892	25,124	82	1,867	11,825
合計	3,538	1,194,619	195,275	216,492	411,767	1,419	19,819	143,145

3. 機構

令和6年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年7月～平成26年度 (公財)富山県文化振興財団
 平成27年度～平成31年度 (公財)富山県文化振興財団
 令和2年度～令和6年度 (公財)富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏名	備考
館長	室井 滋	
副館長	森田 真己	
事業部長	生田 美秋	
主幹	窪田 諭	本務 文化振興課主幹
事業課長	福澤 美幸	
係長	谷口 万里子	兼務 文化振興課
係長	綿引 香織	学芸員
係長	大川原 竜一	学芸員
係長	小林 加代子	学芸員
主任	亀島 麻衣子	
主事	棚辺 夏生	兼務 文化振興課
主事	福澤 頌大	兼務 文化振興課
会計年度任用職員	高田 志津子	
会計年度任用職員	沙魚川 祥子	
会計年度任用職員	坂野 由里子	
施設管理課長	長井 秀年	
副主幹	角波 学	
嘱託	魚屋 美智乃	

4. 組織

令和6年3月31日現在

高志の国文学館運営委員会委員

氏名	役職等
伊東 眞	(一社) 富山県芸術文化協会会長
上田 洋一	富山県歌人連盟会長
上野 誠	國學院大學文学部日本文学科教授(特別専任)
内山 真理子	公募委員(会社員)
鷺野 佑佳	富山県PTA連合会副会長
國香 真紀子	富山県小学校長会副会長
三ノ宮 一貴	日本青年会議所富山ブロック協議会長
飛田 久子	富山県婦人会副会長
中垣 理子	世田谷文学館学芸部長
羽根 由	(株) P C O取締役会長
麦野 英順	(株) 北陸銀行特別顧問、富山経済同友会代表幹事

高志の国文学館収蔵資料検討会委員

氏名	役職等	
委員	木下 晶	(一社) 富山県芸術文化協会参議
	中井 敏郎	高志の国文学館友の会副会長
	中村 只吾	富山大学教育学部准教授
	上田 洋一	富山県歌人連盟会長
	山崎 一穎	前全国文学館協議会会長

高志の国文学館アドバイザー

氏名	役職等
篠田 正浩	映画監督
滝田 洋二郎	映画監督

高志の国文学館新企画アドバイザー

氏名	役職等
太田 麻衣子	クリエイティブ・ディレクター
菓子 浩	ドラマプロデューサー
柏原 光太郎	文芸宣伝
高成 麻畝子	在京テレビ局・海外事業部
本木 克英	映画監督
山内 マリコ	作家

IV 資 料

沿革

年 月 日	事 項
平成24年 7月 6日	開館
7月 6日	開館記念展「大伴家持と越中万葉—風土とこだまする家持の心」開催
7月15日	入館者1万人達成
8月 8日	秋篠宮同妃両殿下ご夫妻並びに佳子内親王殿下ご来館
12月 8日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代—小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道—」開催
平成25年 2月 3日	入館者10万人達成
3月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪—大自然に生きる母と子の物語—」開催
4月 7日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
5月26日	入館者15万人達成
7月 7日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催
8月10日	特別展「辺見じゅんの世界」開催
10月10日	入館者20万人達成
10月18日	高円宮妃殿下ご来館
11月 3日	中西進館長 文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝—棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長 富山県特別荣誉賞授与式・文化勲章受章記念講演会 開催
平成26年 3月20日	企画展「まんが家 藤子・F・不二雄のSF（すこし・ふしぎ）」開催
4月 6日	入館者25万人達成
4月26日	棟方志功未公開作品特別展示 開催
7月26日	企画展「風の盆 深奥の心をさぐる」開催
8月 4日	入館者30万人達成
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」開催
10月30日	企画展「川の文学—うつりゆく富山の歴史の中で—」開催
平成27年 1月 7日	ギャラリー展「『冷光文庫』展—富山におり立った「雪の女王」を訪ねて—」開催
1月28日	企画展「川の文学 美しきふるさと—富山の川をめぐる文学と美術の交響—」開催
3月13日	企画展「三禅定の旅—立山・白山・富士山をめぐる—」開催
5月20日	ギャラリー展「豊かなイマジネーション 妖怪がひそむ富山の民話」開催
5月29日	特別企画展「『田園発 港行き自転車』藤森兼明 挿絵原画展」開催
7月11日	企画展「あの日、青い空から—久世光彦の人間主義」開催
7月19日	入館者40万人達成
9月 9日	ギャラリー展「『海』物語 憧れ・神秘・畏怖—海づくり大会によせて—」開催
10月18日	企画展「山の湯の詩情—田中冬二へのいざない」開催
平成28年 1月23日	企画展「松本清張を魅惑した北陸—ミステリー文学でたどる—」開催
3月21日	企画展「夢二の旅—たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」開催
6月 3日	ギャラリー展「富山映画展—スクリーンの中の人と風景—」開催
7月 3日	入館者50万人達成
7月 9日	企画展「面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ」開催
10月29日	企画展「浅野総一郎—九転十起の生涯」開催
平成29年 1月14日	企画展「知られざる作家の世界—書簡から直筆原稿、書画まで」開催
3月19日	企画展「官人 大伴家持—困難な時代を生きた良心」開催
5月29日	天皇皇后両陛下ご視察
6月11日	企画展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉」開催
同日	入館者60万人達成
7月23日	企画展「おわらと林秋路—風の盆の画家」開催
10月14日	特別展「宮本輝—人間のあたたかさ、生きる勇気と。」開催
12月16日	企画展「竹久夢二 音楽を描く」開催

年 月 日	事 項
平成30年 3月18日	企画展「歌人 大伴家持—現代と響き合う詩心」開催
5月14日	入館者70万人達成
6月10日	企画展「没後20年 星野道夫の旅 Selection」開催
8月11日	企画展「里中満智子「愛」のテーゼ」開催
10月17日	特別展「堀田善衛—世界の水平線を見つめて」開催
平成31年 1月6日	企画展「北の命の物語展 倉本聰と点描画」開催
3月17日	企画展「家持発見—響き合う詩歌と絵画」開催
4月27日	入館者80万人達成
令和元年 5月25日	企画展「宮沢賢治 童話への旅」開催
7月27日	企画展「谷川俊太郎の宇宙」開催
10月6日	特別展「藤子不二雄 [Ⓐ] 展— [Ⓐ] の変コレクション—」開催
令和2年 1月19日	企画展「生誕110年 中島敦展」開催
2月16日	入館者90万人達成
4月11日	企画展「生誕170年 ラフカディオ・ハーンの共感力—発見、探求、そして発信へ」開催
7月26日	企画展「国際アンデルセン賞受賞記念展 角野栄子の魔女」開催
9月20日	企画展「米国アカデミー賞監督 滝田洋二郎 展」開催
令和3年 2月6日	企画展「久泉迪雄の書齋から—“悠かなり 富山の文化”」開催
4月29日	企画展「映画監督 本木克英 展」開催
7月10日	企画展「まど・みちおのうちゅう—「ぞうさん」の詩人からの手紙」開催
10月2日	入館者100万人達成
10月30日	企画展「太宰 治 創作の舞台裏 展」開催
令和4年 1月16日	企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」第1期 開催
3月30日	企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」第2期 開催
6月25日	開館10周年記念企画展「荒井良二の PICTURE BOOK<絵・本>」開催
9月24日	開館10周年記念企画展「没後50年 芥川賞作家 柏原兵三展」開催
12月24日	開館10周年記念企画展「没後50年 川端康成 展—愛を乞う魂」開催
令和5年 3月19日	開館10周年記念企画展・G7教育大臣会合開催記念「百人一首—和歌と美の世界 展」開催
3月31日	入館者110万人達成
5月12日	G7富山・金沢教育大臣会合における高志の国文学館視察
6月24日	企画展「絵本作家 降矢なな原画展」開催
9月24日	企画展「富山新聞創刊100年記念 ドナルド・キーン 世界から見た日本文学展」開催
12月16日	企画展「没後50年 コスモポリタン 翁久允 OKINA Kyuin 脱日本人！展」開催
令和6年 3月23日	企画展「堀辰雄生誕120年展 “風立ちぬ”堀辰雄と軽井沢の文学者たち」開催

V 關係法令

高志の国文学館条例

平成23年 9月28日

富山県条例第41号

改正 平成24年 6月29日条例第38号

平成26年 3月26日条例第21号

平成28年 3月25日条例第22号

平成30年 3月26日条例第19号

平成31年 3月15日条例第 9号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

(趣旨)

第1条 この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に
し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品
その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の
知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親
しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民
に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、
学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄
与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）
を設置する。

(位置)

第3条 文学館は、富山市に置く。

(事業)

第4条 文学館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムそ
の他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」
という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに関
覧に供すること。
- (2) 文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を
行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。
- (3) 文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を
開催すること。
- (4) 文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
- (5) 文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年
報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を
達成するために必要な事業

(指定管理者による管理)

第5条 知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第
244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつ
て知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）
に文学館の管理を行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第6条 前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業
務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) 第13条第1項の規定による専用使用の承認に関する
業務
- (3) 第15条第1項に規定する使用料の徴収に関する業務
- (4) その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務
(休館日)

第7条 文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、
知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の
日に休館し、又は休館日に開館することができる。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23
年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）
に当たる場合を除く。）
- (2) 休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当
たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれ
らの日以外の日）
- (3) 12月29日から翌年の1月3日までの日
(平28条例22・一部改正)
(開館時間)

第8条 文学館の開館時間は、午前9時30分から午後6時
までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間につい
ては午前9時30分から午後9時まで、駐車場の開館時間
については午前9時から午後9時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると
認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

(平24条例38・平28条例22・一部改正)

(入館の拒否及び制限)

第9条 指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次
の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒
否することができる。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は文学資料（次条第1項第2号におい
て「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそ
れがあるとき。

2 指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めると
きは、入館を制限することができる。

(遵守事項等)

第10条 文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守ら
なければならない。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。
- (2) 施設等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (3) 指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしない
こと。
- (4) その他知事が特に指示した事項

2 知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

(常設展示観覧料及び企画展示観覧料)

第11条 常設展示室において展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の常設展示観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

2 企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(特別観覧)

第12条 文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

3 第1項の承認を受けた者は、別表第1に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(専用使用の承認等)

第13条 文学館の施設のうち別表第1に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第9条第1項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

3 第1項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料及び駐車料金)

第14条 前条第1項の承認を受けた者(以下「専用使用者」という。)は別表第1に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第2に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の徴収方法)

第15条 常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金(以下「使用料」という。)は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

2 使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の減免)

第16条 知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

(使用料の還付)

第17条 既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(専用使用の承認の取消し等)

第18条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第1項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

(1) 専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

(2) 専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第1項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

(3) 専用使用者が第13条第3項の規定による承認の条件に違反したとき。

(4) その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

(高志の国文学館運営委員会)

第19条 文学館に高志の国文学館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条 委員会は、委員20人以内で組織する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(平28条例22・一部改正)

第21条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成23年10月1日から施行する。ただし、第5条から第21条まで、附則第2項及び別表第1の規定は、規則で定める日から施行する。

(平成24年規則第40号で附則第1項ただし書に規定する規定は、平成24年7月6日から施行)

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料の特例)

- 2 前項の規則で定める日から起算して2年を経過する日までの間における別表第1の4の規定の適用については、同表中「4,350円」とあるのは「2,900円」と、「860円」とあるのは「570円」と、「3,890円」とあるのは「2,590円」と、「770円」とあるのは「510円」と、「1,390円」とあるのは「930円」と、「280円」とあるのは「190円」とする。

(平24条例38・平26条例21・一部改正)

附 則 (平成24年条例第38号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成24年7月6日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の日から平成25年3月31日までの間における第6条の規定の適用については、同条第1号中「施設」とあるのは「施設(駐車場を除く。)」と、同条第3号中「使用料」とあるのは「使用料(駐車料金を除く。)」とする。

附 則 (平成26年条例第21号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

(高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置)

- 3 この条例の施行の際現に第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成28年条例第22号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 (平成30年条例第19号)

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (平成31年条例第9号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。

(高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置)

- 3 この条例の施行の際現に第9条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第9条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1 (第11条、第12条、第13条、第14条関係)

(平24条例38・旧別表・一部改正、平26条例21・一部改正、平30条例19・平31条例9・一部改正)

1 常設展示観覧料

区 分	金額 (1人1回につき)
個人	200円
20人以上の団体	160円

備考 小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2 企画展示観覧料

1人1回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3 特別観覧料

1回1点につき4,200円の範囲内で知事が定める金額

4 施設使用料

区 分		使用時間3時間までの金額	超過時間1時間の金額
研修室1	全部使用	14,420円	3,610円
	2分の1使用	7,170円	1,790円
研修室2		4,430円	880円
研修室3		3,960円	780円
研修室4		1,420円	290円
研修室5		1,420円	290円
和室		1,700円	340円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

1 使用時間1時間未満の端数は、1時間として計算する。

2 使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第2 (第14条関係)

(平24条例38・追加、平31条例9・一部改正)

種 別	単 位	金 額
基本料金	入場した時から1時間までにつき1台	330円
加算料金	入場した時から1時間を超える時間30分までごとにつき1台	110円

高志の国文学館条例施行規則

平成24年 7月 5日

富山県規則第43号

改正 平成28年 3月31日規則第32号

高志の国文学館条例施行規則を次のように定め、公布する。

高志の国文学館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入室時間)

第2条 高志の国文学館（以下「文学館」という。）の常設展示室及び企画展示室に入室できる時間は、午前9時30分から午後5時30分までとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平28規則32・一部改正)

(特別観覧の承認申請)

第3条 条例第12条第1項の規定により文学館に展示し、又は保管している文学資料（条例第4条第1号に規定する文学資料をいう。第6条及び第9条において同じ。）の模写、模造、撮影等（以下この条において「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、特別観覧をしようとする日の7日前までに、高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書（様式第1号）を知事に提出するものとする。

(平28規則32・一部改正)

(専用使用の承認申請)

第4条 条例第13条第1項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けようとする者は、高志の国文学館施設専用使用承認申請書（様式第2号）を指定管理者に提出するものとする。

2 前項の申請書は、専用して使用しようとする日（次条第1項において「専用使用日」という。）の3月前から前日までの間に提出するものとする。ただし、指定管理者が文学館の施設の使用に支障がないと認めるときは、この限りでない。

(専用使用の変更)

第5条 条例第13条第1項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けた者（次項及び第8条において「専用使用者」という。）は、専用使用日を変更しようとするときは、専用使用日の前日までに指定管理者の承認を受けるものとする。

2 専用使用者は、やむを得ない理由により当該承認に係る時間を超過して文学館の施設を使用する必要があるとき

は、あらかじめ指定管理者の承認を受けるものとする。

(平28規則32・一部改正)

(観覧料の減免)

第6条 条例第16条の規定により常設展示観覧料又は企画展示観覧料（以下この条において「観覧料」という。）を減免することができる場合及びその場合における減免の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるところとする。

(1) 条例別表第1の1の表の備考に規定する者又は幼稚園の幼児の引率者が教育課程に基づく教育活動又は社会教育関係団体の教育活動として、常設展示室において展示している文学資料又は企画展示室において特別に展示している文学資料（以下この項において「常設展示等」という。）を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通所している者及びこれらの引率者が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人（当該交付を受けた者1人につき1人に限る。以下この項において同じ。）が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 療育手帳制度について（昭和48年9月27日付け厚生省発児第156号厚生事務次官通知）に基づき療育手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額

(5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額

(6) 70歳以上の者が常設展示室において展示している文学資料を観覧する場合 常設展示観覧料の全額

(7) 前各号に掲げるもののほか、知事が特別の理由があると認める場合 知事が必要と認める額

2 前項第1号又は第2号に掲げる場合における観覧料の減免は高志の国文学館観覧料減免申請書（様式第3号）を知事に提出することにより、同項第3号から第5号までに掲げる場合における観覧料の減免は身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の確認により、同項第6号に掲げる場合における常設展示観覧料の減免は同号に該当することを証するに足る書類の確認により、同項第7号に掲げる場合における観覧料の減免は別に定めるところにより行うものとする。

(平28規則32・追加)

(駐車場を使用できる自動車)

第7条 文学館の駐車場を使用することができる自動車は、道路交通法（昭和35年法律第105号）第3条の普通自動車（積載物又は取付物を含めて、長さ5メートル以下、幅2メートル以下、高さ2.2メートル以下のものに限る。）とする。

（平28規則32・旧第6条繰下）

（原状回復及び点検）

第8条 専用使用者は、その使用を終えたときは、直ちに施設及び設備を原状に復するとともに、指定管理者の点検を受けるものとする。

（平28規則32・旧第7条繰下）

（施設等の汚損又は損傷の届出）

第9条 文学館の入館者は、施設、設備又は文学資料を汚損し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出て、その指示に従うものとする。

（平28規則32・旧第8条繰下）

（高志の国文学館運営委員会）

第10条 高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）は、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（平28規則32・旧第9条繰下）

（細則）

第11条 この規則に定めるもののほか、文学館の管理及び運営に関し必要な事項は、知事が定める。

（平28規則32・旧第10条繰下）

附 則

この規則は、平成24年7月6日から施行する。

附 則（平成28年規則第32号）抄

（施行期日）

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。

様式第3号（第6条関係）

様式第3号（第6条関係）
高志の国文学館施設使用管理申請書

申請者 氏名 _____

住所 _____

電話番号 _____

申請内容
1. 施設名称 _____
2. 使用目的 _____

申請期間
開始日 _____ 終了日 _____

申請料
申請料 _____

備考
1. 申請料は、返上しないこと。
2. 施設内での喫煙は、禁止する等留意事項を記載すること。

様式第1号（第3条関係）

様式第1号（第3条関係）
高志の国文学館文学資料利用申請書

申請者 氏名 _____

住所 _____

電話番号 _____

申請内容
1. 利用目的 _____
2. 利用期間 _____
3. 利用場所 _____

備考
1. 申請料は、返上しないこと。
2. 施設内での喫煙は、禁止する等留意事項を記載すること。

様式第2号（第4条関係）

様式第2号（第4条関係）
高志の国文学館施設使用管理申請書

申請者 氏名 _____

住所 _____

電話番号 _____

申請内容
1. 施設名称 _____
2. 使用目的 _____

申請期間
開始日 _____ 終了日 _____

申請料
申請料 _____

備考
1. 申請料は、返上しないこと。
2. 施設内での喫煙は、禁止する等留意事項を記載すること。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

平成24年7月5日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程
(趣旨)

第1条 この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第4条第1項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第1号）第3条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

(勤務時間)

第2条 職員の勤務時間は、午前8時30分から午後5時15分までとする。

2 高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

(週休日及び勤務時間の割振り)

第3条 館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

2 職員の勤務時間の割振りは、館長が定める。

(休憩時間)

第4条 職員の休憩時間は、1時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附 則

この訓令は、平成24年7月6日から施行する。

高志の国文学館の使用料の額について

平成24年7月5日
富山県告示第317号

改正 平成26年3月26日告示第148号
平成31年3月29日告示第169号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第1の4の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年7月6日から施行する。

品名	単位	金額
ビデオプロジェクター (スクリーン付)	1式	2,980円
拡声装置(マイク付)	1式	2,540円

備考 この表に掲げる金額は使用時間3時間についての額とし、使用時間3時間未満の端数は3時間として計算する。

改正文（平成26年告示第148号）抄
平成26年4月1日から施行する。

改正文（平成31年告示第169号）抄
平成31年10月1日から施行する。

令和5年度 高志の国文学館 年報

令和6年9月30日発行

編集 高志の国文学館
富山県富山市舟橋南町2-22

TEL 076-431-5492

印刷 北日本印刷株式会社

発行 高志の国文学館

※許可なく転載、複製することを禁じます。

